

新「農福連携とくしまモデル」構築事業

【平成30年度当初予算額 1,000千円】

現状と課題

- 2020東京オリ・パラに向けて、徳島の藍関連産業は盛り上がっている【徳島藍の日を定める条例】
- すくも用タデ藍栽培は、収益性が低くなく、規模拡大も難しいことから、増産が困難
- すくもの需要はあるが、原料用のタデ藍は藍師のニーズが満たされていない
- 藍栽培（生葉での納入）に取り組んでいる障がい者就労支援施設がある



- タデ藍栽培（特に乾燥葉での納品）は、手作業が多い反面、比較的栽培しやすい品目である
- 施設を利用している方々のきめ細かい作業により、高品質な「すくも」原料（乾燥葉）が提供できる可能性

タデ藍栽培と農福連携はベストマッチ！

藍師が求めるタデ藍増産のニーズと障がい者就労支援施設の農業参入のニーズをきめ細やかにマッチング

農福連携とくしま
藍モデル

障がい者就労支援施設

- 栽培、収穫、原料生産（乾燥）まで生産
- 障がいのある方々の活躍の場の創出



目指せ！
障がい者就労支援施設利用者の
平均工賃全国1位！

すくも原料の供給

農林水産部

- もうかるブランド推進課
- 農林水産総合技術支援センター

保健福祉部

- 障がい福祉課
- NPO法人とくしま障害者授産支援協議会
- 他

農福連携推進検討会（藍部会）

- 各藍師（事業者）及び障がい者就労支援施設の要望調査とマッチング
- モデル園の設置
- 「栽培・収穫・乾燥」について生産に取り組む施設へ技術支援

藍師・藍関係事業者

- 希望する藍原料を安定的に入手



阿波藍の未来を支える

本県農業の活性化！本県独自の文化継承に寄与！

担当：もうかるブランド推進課

